第12回三保松原景観改善技術フォローアップ会議　議事概要（案）

日　時	令和８年２月19日（木）14：00～15：30
場　所	静岡総合庁舎７階　第８会議室
出席者 職・氏名	座長　　佐藤愼司（高知工科大学教授）【WEB】 委員　　宇多高明（日本大学客員教授） 委員　　岡田智秀（日本大学理工学部教授）【WEB】 委員　　阿部 聡（国土交通省中部地方整備局河川部地域河川調整官）【代理】 委員　　平澤 毅（文化庁文化財第二課主任文化財調査官）【WEB】 委員　　朝比奈信之（静岡市建設局次長兼土木部長）【代理,WEB】 参考人　居波智也（静岡理工科大学准教授） 事務局　静岡県河川砂防局長、河川企画課長 ほか
議　事	Ⅰ．要綱の改定 Ⅱ．報告事項 １．2025年度のモニタリング結果 ２．事業実施状況 ３．前回フォローアップ会議における意見と対応 Ⅲ．検討事項 １．２号新堤（北）の整備に関する検討 ２．２号消波堤のブロック撤去 Ⅳ.その他 １．気候変動を考慮した海岸保全基本計画の見直し
配布資料	１　議事次第、委員出席名簿 ２　三保松原景観改善技術フォローアップ会議　設立趣意 ３　三保松原景観改善技術フォローアップ会議　設置要綱 ４　清水海岸三保松原景観改善の取組の経緯 ５　【資料１】第12回三保松原景観改善技術フォローアップ会議　資料 ６　【資料２】第12回三保松原景観改善技術フォローアップ会議　参考資料集 ７　清水海岸高潮対策事業概要図 ８　三保松原景観改善技術フォローアップ会議　総括資料

＜議事概要＞【凡例　○：委員、●：事務局】（単に“資料”とあるものは“資料１”を指す。）

Ⅱ．報告事項

１．2025年度のモニタリング結果

（４）景観に配慮した養浜盛土

○資料p.14：文章に「台風22号時に天端部が約10m後退して」という記述がある。添付された２枚の写真を見比べると下の写真の方が２号消波堤がよく見えるが、この写真をもって10m後退したということの証明なのか。写真だけを見てもどこが10m後退したのかが分からない。

●10mの後退は現地で計測している。写真は10mの後退を表現しているというよりは、２号消波堤が少し見えるようになってきたところを説明したいと考えたため、添付した。

○地点（地形）が動かないところを基準点として撮ったため、消波堤が見えるようになったのは周りの地形が変化したからということでよいか。

●そのように考えている。

○資料p.14：提示されている写真は鎌Ｂからのものだが、そもそも景観に配慮した養浜の提案理

由は、富士山と薩埵峠の稜線ラインの構図的バランスにおいて、浜崖状の不自然な形状を改善するためである。当初のコンセプトは「羽衣Ｆから眺めた時の稜線を養浜の中で成形する」ことであった。したがって、鎌Ｂからの写真だけでなく、当初のコンセプトである「羽衣Ｆ」からの写真を毎回情報提供していただきたい。

●参考資料集25ページにある羽衣Ｆからの写真について、本編のモニタリング結果に載せるようにする。

（５）１号消波堤のブロック撤去

○資料p. 15：目立つブロックを「３個撤去した」とあるが、写真には１個撤去した様子しか写っていない。本当にそうなのかとなってしまうため、表現を正確にしておいた方がよい。

●写真は１号消波堤の１個分のものである。正確に伝わるようにする。

（６）視点場以外の養浜盛土の状況について

○資料p. 16：養浜盛土の上下の写真の撮影位置について、汀線に近づいて撮れば盛土は見えなくなるため、正確な比較と言えるか。これは汀線側に近づいて撮ったということなので、盛土が見えなくなったのか。撮影位置を正確に同じ位置にしたほうがよい。

●正確な写真を撮るように注意する。

○資料p. 16：「修景を図った」とあるが、これは工事で修景を行ったのか。

●工事で修景を行う予定で手配していたが、着手前に台風が来て自然の波の作用により自然の状態に近くなったため、実際には工事は行っていない。

○修景と言うからには、形のコンセプトが景観配慮としては必要になる。この方向で修景を行う場合は、背後の松原のスカイラインにぴったり合わなくても、浜に降りていくにつれて左肩下がりのような形で成形するとよい。

●そのように気をつけて工事を進めていく。

○これは、富士山方向の養浜盛土の成形が波及したのか。これほど養浜の成形を行っている事例は全国でもないため、静岡県が先陣を切ってやっていることを広く宣伝していきたい。

●その考え方をこちらにも適用した。

○資料p. 22：４号消波堤の下手側に三保の灯台がある。公共施設として非常に重要なものであるため、はっきりと守るべきだという意味で図の中に灯台を明記してほしい。

●図中に記載する。

４．前回（第11回）フォローアップ会議における意見と対応

○資料p. 31：都営地下鉄のPRポスターは、富士山をクレーンが凌駕しているという風に見える。なかなかいいと思う。

○都営地下鉄でのPRポスター掲示が３月２日から15日までの２週間実施するとのことだが、その期間にやっているということを関係者に伝えないと、偶然見るだけになってしまう。再周知してほしい。

●再周知する。

Ⅱ．検討事項

１．２号新堤（北）の整備に関する検討

〇資料p. 37：「２号新堤（北）の概ねの設置位置」というのは、33ページのラインと同じで、ほぼ南と北が直線上に並ぶと考えてよいか。

●その通りである。

〇資料p. 38：「２号消波堤のブロック撤去を行うためには、２号新堤（北）の整備が必要である」とあるが、これでは撤去のために整備が必要と短絡的に読めてしまう。「撤去すると消波機能や海浜安定機能等の防護機能が失われるため、その代替措置として２号新堤の整備がどうしても必要」という、理屈が整理された文章にしておいたほうがよい。

●表現を修正する。

〇２号新堤（北）の整備についてのコスト増の分は静岡県は頑張ると言っているのだから、FU会議としては応援するということでよいか。

〇いいと思う。

〇中間段階でやめたということはあり得ず、北と南をセットでやる計画でやってきたのだから、途中で「予算が足りないからやめた」とは言わない方がよい。計画通りにやる必要がある。

〇それでは、２号新堤（北）の具体的な検討の着手をお願いする。

２．２号消波堤のブロック撤去

〇資料p. 43, 44：２号消波堤は非常に効果的な施設である。したがって、２号新堤（南）・（北）が完成し、海浜が安定したことが確認できてから撤去を開始するべきである。撤去のタイミングによって、高波浪が来ない時に撤去するのは容易だが、2019年の台風19号のような高波浪があれば激しい地形変化が起こる。手戻りがないよう、タイムスケジュールとリスク管理を考慮しながら検討してほしい。

●資料の最後のp. 67にスケジュールを示している。モニタリングや外力の条件を踏まえて、どうするべきかはご指摘を踏まえて検討していきたい。

〇羽衣Ｆと鎌Ｂからの見え方について、鎌Ｂの方が視距離が近い分、突出感が著しい条件で見えてくる状況か。

●鎌Ｂからの方が２号消波堤はよく見える。

〇資料p. 48：フォトモンタージュ（羽衣Ｆからの見え方）を見ると、２号消波堤は点にしか見えない。１号消波堤は撤去レベルｂ１まで実施したが、２号については数年後の話になるが、コストの観点から撤去レベルａで止めておくという選択肢もあるのではないか。撤去レベルａで止めた場合の工事費の情報も提供してほしい。鎌Ｂからの視点も大事だが、羽衣Ｆから多数の人が見ることも考慮した議論もできればよい。

●工事費等も示ししながら議論いただけるような資料作りをしていく。

〇羽衣Ｆは観光目線、鎌Ｂは近隣の人の散策によく使われているという背景がある。工事費が異常に高くなっているということになれば、観光目線に特化して工事費を抑えるという考え方もある。観光目線はしっかり担保するという建付けが今後必要である。

〇羽衣Ｆからの見た目は現状では問題ないと感じた。予算との兼ね合いを重要視しながら進めること、また、現在２号消波堤が防護として利いているという点を忘れずに進めることが重要であ

る。
○人間は気になるところを拡大して見てしまう。１回ある時期にみんなで確認したほうがよい。結論として、２号新堤（北）の完成後のブロックの撤去レベルについても今後議論した方がよい。

Ⅲ．その他

１．気候変動を考慮した海岸保全計画の見直しについて

○資料p.52：「将来の気候変動の影響によらない侵食に対して適切な対応を行う」という記述があるが、今でも侵食が起こって困っている場所がある。その対応はちゃんとやるのか。将来の不確実なことばかり言っているうちに、現在の侵食が激しい場所への対応が疎かになるのは本末転倒である。現在の侵食対策（養浜など）は手を抜くわけではないという理解でよいか。
●ご指摘の通り、基本的には必要な防護を行う。将来、地球規模で大きな変化が起きた時には、状況を見ながら対応を考えるという方針である。
○資料p.52：海面が上昇すれば消波効果は下がる。２号新堤の耐久性を40～50年と考えると、海面上昇を考慮する方針とは、具体的にどういうことを意味しているのか。かさ上げするのか、後で追加できるようにするのか。
●現時点において将来も耐えうる構造で作るか、将来嵩上げできる構造にするかなどをイメージしており、来年度の予備設計時に委員に相談しながら設計を進めたい。
○海面上昇後の有脚式構造物の対応として、杭の長さが不足し根本的な改修が必要になる危険性がある。ただし、当面すぐ作らなければならないため、必ずしも大きなものを作ることを意図しているわけではないという理解でよいか。
●段階的な整備など、将来どのような対応ができるかを見据えながら設計を進めていくという考えである。
○海岸保全基本計画で2100年を見据えた海岸保全を行うとの記載であれば、2100年の水位と波浪強度の増加を「見据えた設計」をやってほしいが、「考慮する方針」とはそういう宣言か。
●2100年時点を考えながら構造物を設計することと、過大なものにならないかの２点を考えている。水位等を考慮しながら予備設計を行うことは１つの考え方であるが、費用面も踏まえて検討しながら進めたい。
○地球規模の変動は誰も分からないため、100％取り入れようとするのは非現実的でありコスト的にも無理かもしれない。しかし、構造物が大きくなる方向に行く場合のコストを勘定しておくことは必要である。また、将来起こるかもしれないことを記録に残しておくことは大事であり、具体的に検討してみるということが「考慮する」ということであると思う。
●そのような形で考えており、途中の段階でも意見をいただきながら進めたい。

Ⅳ．全体を通して

○イコモスへの報告の段取りについて、新堤（北）の件などいつまでに報告すべきか確認したい。
○ユネスコ世界遺産委員会での審議にかかっているため、イコモスへの報告はもう不要である。現在は６年ごとの定期報告というシステムの中で取り組みを報告していく形となっている。改善していくという枠組みが世界遺産委員会で承認されており、国内での検討体制がきちんとしていることが報告されれば、詳細な報告義務はない。

〇資料 p. 20：養浜単価について。2015 年と 2024 年を見ると、サンドバイパス（3,400 円→7,600 円）とサンドリサイクル（2,000 円→2,200 円）で上昇率に大きな差があるが、2024 年のサンドバイパスは運搬距離が長かったなどの経緯があるのか。国交省がやっている養浜の単価が入っていないと誤解を招くのではないか。

●ダンプの運搬費の値上がり幅がバックホウより大きかったためと想定している。運搬距離は同じであり、これは県工事の単価実績である。安倍川の土砂については、直轄分について誤解がないよう精査し、修正等を行う。

〇名勝三保松原の保存活用計画について、これまでは羽衣の松周辺の保存と活用に集中してきたが、これからは三保半島先端部（飛行場など）への誘致も検討されている。鎌ヶ崎あたりでの景観のあり方と、羽衣からの景観のあり方は意味合いが違ってくる。静岡市が名勝を管理していることや先端部への誘致の議論があることなど、いろんな動向があるため、北側の検討については静岡県も情報を入れ、合わせて議論を進めてほしい。

〇１号突堤の工事の際に、静岡県と施工会社で工事中の啓発としてフォトコンテストを実施したが、２号新堤（北）の整備時にも同様の広報活動ができないか。

●２号新堤（北）の工事の際には、ご提案いただいたフォトコンテストをまた企画していきたいと考えている。

〇完成後は長い時間景観と付き合うことになるが、工事中というのは一時の歴史的な出来事であるため、写真等で保存しておくことは 10 年後、15 年後に大きな意味を持つので大切にしていただきたい。

以上